

パブリックコメント結果

第2次小金井市スポーツ推進計画（案）に対する意見及び検討結果について

意見募集期間：令和4年12月15日から令和5年1月16日まで

意見提出数：6人・30件

番号	項目	寄せられた意見	意見に対する検討結果
1	P1	パブリックコメントのありかたについて 求められている焦点が曖昧で回答が難しく感じました。 市民からどの箇所についてどのような意見が欲しいのか？といった観点で回を分けるなどいただけると幸いです。	いただいたご意見について広く庁内に共有させていただきます。貴重なご意見をありがとうございました。
2	P1	市役所建設予定地は今のまま子供たちの広場として残して頂きたい。 蛇の目跡地が市役所建設予定地となっていますが、ここは周辺の保育園児の遊び場及び運動会などの場所、子供たちの野球キャッチボール、親子のバトミントンなど市民の運動の場所となっています。これだ周囲に緑があって、野球（キャッチボールなど）自由に出来る広場はそうありません。 市役所は今機能している現在のところを購入するかして、建設予定地は今のまま広場として、子供たちのためにそのまま残して頂きたい。と思います。 子供のころの体を使った遊びは、自然な体力、気力の増強、など成人してからの生きていく基本となります。	人生100年時代においては、ご意見にあるような子どものころの体を使った遊びにより運動・スポーツに親しむことは当審議会でも重要であると捉えており、計画案においても公園等の緑、水辺等の自然環境といった資源を活用しながら運動・スポーツに親しめる環境づくりを推進すると記述しております(p49基本方針3)。ご意見を踏まえ、より健康で自分らしく生きることができるようには、スポーツに親しむことは大切なことであり、子どもを含めて誰もが運動・スポーツを通じて健康増進をするとともに、つながりあえるような環境づくりを行うという記述を増やしました(p32基本理念)。中学校運動部活動の地域移行への対応(p36基本施策1-1)でも、誰もが生涯を通じて運動・スポーツに取り組み、充実した人生を送るためには、子どものころから運動・スポーツへの親しみを涵養させていくことが求められるという記述を追加しました。また、いただいたご意見を市の関連部署と共有させていただきます。貴重なご意見をありがとうございました。
3	P6	ページ6：野川駅伝大会が掲載されているが、小金井市陸上競技協会でも市民陸上競技協会、元旦ロードレース大会、ジュニア育成陸上競技教室などを実施している。黄金井倶楽部は総合型地域スポーツクラブのため特別な扱いはあるであろうが、市報掲載の面積などで非常に不公平感がある。各大会の場所の確保にも非常に苦労している。同じスポーツの場を提供している立場からして、小金井市から同等のサポートがほしい。	市報の掲載方式や開催場所の確保において、それぞれスペースが限られていることから委託事業と後援事業で区別が設けられていますが、小金井市陸上競技協会におかれては、多くの市民に陸上競技を楽しみ、また技術を高める機会を提供していただいております。市のスポーツ振興に大いに寄与していただいていることを認識しており、今後も協力・連携してまいりたいと考えます。貴重なご意見をありがとうございました。

4	P9	「市の関連計画の整理」等について。 2ページには、概念図のような図が掲載されていますが、「スポーツ施設の整備と、公共施設マネジメントや防災計画」「屋外の運動環境整備と、自然環境保護や歩道・自転車道整備、防犯」「子どもの身体活動・スポーツ推進と、学校の体育教育のあり方・休み時間等の過ごし方・クラブ活動」「スポーツによる健康維持増進と、保健福祉医療・国民健康保険等の計画」「民間のスポーツ産業と、地域経済産業」「トップアスリート・プロスポーツ支援応援と、地域振興」等の関連について、俯瞰できる図があると、よいのでは、という印象も受けました。	ご意見にあるように、スポーツ施策を考える際、関連分野を俯瞰し総合的に捉えることは、より適切で効率的な方法を選択するために不可欠であると考えます。ご意見を踏まえ、p2計画の位置づけの図に関連計画を追加しました。個々の内容の関連については多岐にわたると思われると思います。関連する様々な分野への視点を念頭に入れ、施策を進めてまいります。貴重なご意見をありがとうございました。
5	P18	①和暦 → 和暦（西暦表示）又は西暦表示（P1、P2、P7、P18他） ・P9、P10、P11のような表示 ・例えば、P18黄金井倶楽部 平成18年（2006年）設立 【理由】西暦で表示すると何年前に設立されたか分かるが、和暦だと調べないと不明。	ご意見を踏まえ、計画書全体に渡り表記を修正しました。貴重なご意見をありがとうございました。
6	P20	市民陸上競技大会では学芸大学グラウンドの使用許可についてはスポーツ振興課に感謝している。元旦ロードレース大会での小金井公園の使用許可が厳しくなっている。ジュニア育成では学校校庭の平日、休日とも既存の競技会（サッカー、野球）が既得権として使用しており、陸上として使用できない。また、校庭の確保は平日は学校の許可、休日は小金井市の許可が必要で別々となり、ややこしい。一本化できないか。	いただいたご意見を関連部署と共有させていただきます。貴重なご意見をありがとうございました。
7	P21	陸上競技協会に加盟している陸上クラブの市内の公園（都立公園以外）の使用ができなくなっている。市内の公園の使用をできるようにしてほしい。中学校部活への外部指導員の参加の強化を行ってほしい。	いただいたご意見を市の関連部署と共有させていただきます。また、運動部活動の地域移行において、地域における新たなスポーツ環境の在り方やその構築方法などを考える中で、外部指導員の参加について検討してまいります。貴重なご意見をありがとうございました。
8	P22	年代別の回答状況も詳しく記載いただければとより現状が分かるかと思えます。 郵送調査をベースにしているため、運動習慣の実施率が低い20代～50代からの回答は得られていないのではと思ひ、資料記載の実績値が現状を反映できているのか疑問に感じます。 参考値としてweb調査を実施されているとのことですが、こちらが含まれているのかどうか記載いただければと思ひます。	年代別の回答状況は「小金井市スポーツ環境充実に向けたアンケート調査（郵送形式）報告書」p2に掲載されています。この資料は市ホームページ（スポーツ推進審議会令和4年度第3回資料3）に掲載されています。 web調査の結果はp22～30のアンケート結果のページには含まれていませんが、念頭に入れたうえで審議しました。また、web調査の抜粋を計画書の資料編に掲載するため、p22にその案内を掲載します。貴重なご意見をありがとうございました。
9	P22	「無作為抽出の市民を対象とした郵送アンケートと、Webによる参考調査」について。 今回、Web調査も実施していただいて、よかったですと思ひます。ありがとうございます。若い人・子どもの意見も集められるような仕組みを、今後も続けていただければと思ひます。 是非、他課の管轄の、無作為抽出の市民対象のアンケート調査も、可能なものは、Web上で「そのアンケートのテーマに関心がある市民が自ら回答できる、参考調査」を実施していただきたいです。 今回のアンケートを先例・好例として、全庁的に、市民参加のガイドライン・市民アンケート調査の手引き等のアップデートのご検討を、お願いいたします。	今回のweb調査を評価していただき感謝申し上げます。いただいたご意見を広く庁内に共有させていただきます。貴重なご意見をありがとうございました。

10	P35	<p>「誰もが親しめる運動・スポーツ活動の推進」について。  本計画案には、ジェンダーやリプロダクティブヘルス・ライツに関連する項目・言及はありませんが、スポーツへのアクセスについては、生物学的性差・健康面生理面での性差（女性の月経、妊娠出産授乳、骨密度等）、社会的・経済的な性差（家庭内ケア労働・家事育児介護に費やす時間、ライフイベント、就労状況、経済的余裕、長時間労働や転勤頻度等）、防犯面での性差（女性が一人でウォーキング・ジョギング・サイクリングができる場所・時間帯、更衣・休憩・トイレのスペースの課題等）などが存在していると考えています。  本計画案でなくても、どこか別のところで、行政として「運動・スポーツをする機会」の性差・属性による格差について、整理した上で、具体的な事業計画に反映させていただけると、「スポーツやってみようかな」「これなら自分でもできそうだな」という市民を増やす一助になるかもしれない、と思います。よろしく願いいたします。</p>	<p>ご意見にあるように、女性が運動・スポーツを実施するに当たりさまざまな配慮すべき点が存在すると思います。ご意見を踏まえ、より健康で自分らしく生きることができるようにするためには、スポーツに親しむことは大切なことであり、誰もが運動・スポーツを通じて健康増進をするとともに、つながりあえるような環境づくりを行うという記述を増やしました（p32基本理念）。ご指摘いただいたさまざまな面で、性別・属性を問わず、安全で快適に運動・スポーツを楽しめるよう、施策を検討してまいります。貴重なご意見をありがとうございます。ありがとうございました。</p>
11	P35	<p>「週に1回以上の運動習慣」において、スポーツの機会として既存の運動コミュニティへの参加の斡旋、もしくは新たに運動を行うコミュニティの立ち上げ支援が重要だと考えます。  特に運動習慣の実施率が低い20代～50代は、小金井市において転入出数が最も多い世代になっていることから、地域につながりがあるかどうかという点は運動の継続と関連があるのでは無いかと感じています。（実際に私は小金井市につながりができたことでサッカーチームに所属し、運動習慣の形成ができました。）  また、個人の場合はランニングやジム通いなど継続には、その時の余裕や意志に左右されやすく中断してしまいやすい運動に限られています。コミュニティがあれば励まし合うことができたり、チームスポーツなど運動の種類を幅を広げることができます。</p>	<p>計画策定に向け実施したアンケートで、約7割の方が「友人・仲間との交流/交友関係の拡大」が運動・スポーツをする理由・動機づけになると回答していることから、コミュニティへの参加が運動習慣の継続に大いに寄与すると認識しています。計画案においても、地域の豊かなコミュニティ等を最大限活用し本市で運動・スポーツをする喜びや楽しみが感じられるようにし、本市への愛着、本市で暮らす魅力を育んでいくとしております（p34施策体系）。ご意見を踏まえ、「地域との連携による運動・スポーツを支える体制の充実」にスポーツ関連団体や地域の仲間など、さまざまなつながりが増えていくようコミュニティの活性化を図るといった記述を増やしました（p52基本施策3-2）。  今後の施策においてコミュニティを活用するとともに、活性化につながるよう実施していくべきであると考えます。貴重なご意見をありがとうございました。</p>

12	P35	<p>「子どもの運動」について。本計画案では、未就学児の身体活動については、あまり触れられていないようですが、公園・運動施設が少ない駅前に、園庭無し保育園が集中して開設され、園のお散歩では数少ない公園を譲り合って使っていたり、狭い公園で、未就園児の親子連れの外遊びと園のお散歩がバッティングしたりする様子が、気がかりです。</p> <p>「未就学児の身体活動」にとって、園庭開放ができるような、広い園庭がある基幹園が、小学校区毎にあるような環境が、子育て環境にとって、望ましいのではないのでしょうか。</p> <p>市立保育園の園庭は、子どもたちにとって、貴重な環境リソースだと思います。しかし、廃園賛成派の市議会議員から「園庭保有率問題」や「公園が少ないエリアの課題」について意見がほとんど出ないまま、「未就学児の身体活動の場のあり方」の議論も無しに、くりのみ保育園・さくら保育園の段階的縮小が決まったことは、大変遺憾です。</p> <p>幼児・低年齢児のplaygroundとしての公園整備については、各保育園に「身体活動・外遊びが足りているか」「お散歩・外遊びをする上での課題やハードルはあるか」「市や都への要望は」等の聞き取り調査をして、それを都市計画・駅前開発・高架下展開等に活用すべきだと考えています。</p> <p>個人の感想レベルの話ですが、現市役所庁舎の跡地も、市内幼保・児童施設の建替え時の仮園舎と周辺園や未就園児も使える共同園庭として活用し、未就学児が思いきり身体を動かせる場を確保したほうがよいのでは、と思います。</p> <p>ご検討よろしく願いいたします。</p>	<p>計画案では、子どもにとって、運動・スポーツは基礎的な体力の向上や、動きの発達のほか、人間関係やコミュニケーション能力が育まれる等、心身の発達にとっても効果的（p35基本施策1-1）と記載しており、未就学児を含め子どもたちにとって運動・スポーツができる環境は重要であると考えております。ご意見を踏まえ、より健康で自分らしく生きることができるようにするためには、スポーツに親しむことは大切なことであり、子どもを含めて誰もが運動・スポーツを通じて健康増進をするとともに、つながりあえるような環境づくりを行うという記述を増やしました（p32基本理念）。いただいたご意見を関連部署と共有させていただきます。貴重なご意見をありがとうございます。</p>
----	-----	--	---

13	P35	<p>P35-37 P4の(基本評価1)の評価で関心が低い人 意欲があっても参加できない人をどう参加させるか。また(基本評価2)の評価でも意欲は高まっているが面倒臭い・忙しい等スポーツ参加への精神的・時間的ハードルをどう克服するか対策が講じられているラインナップには見えません。</p> <p>基本的にイベントを開催するが、その浸透度・参加者の広がりに関しては。共働き世代の増加などで休日は忙しく、一般のイベントやレクリレーションとの競合になっており、他のイベントではなく、運動イベントに参加するモチベーションを高める必要がないでしょうか。もしくは「運動・スポーツ」という意識がないまま運動しているイベント等「スポーツ」はハードル高いと感じている人たちへの対策も欠かせないと思います。</p>	<p>運動・スポーツに関心が低い方や意欲があっても参加できない方、精神的、時間的ハードルがある方への働きかけとして「運動・スポーツに興味・関心を持つ機会の充実と情報発信の強化」(p47基本施策2-2)で様々な時期・場所・時間帯において、気軽に参加し、取り組める運動・スポーツイベントを実施し、運動・スポーツに興味・関心を持つ機会の充実を図るとしてまいります。併せて誰でも手軽に参加できるインクルーシブスポーツのイベントを実施してまいります。貴重なご意見をありがとうございました。</p>
14	P35	<p>また数々のイベントを開催したことでの地域のでつながりなどがどの程度広がったり充実するのの観点の記載が見当たりません これでは前回の基本計画から大きく好転することは難しいのではないのでしょうか</p>	<p>イベント等の開催においては、本市の強みである豊かなコミュニティを活かして、地域の多様な団体・人材と連携し、様々な広報媒体の活用・連携等により情報発信を強化してまいります(p47基本施策2-2、p52基本施策3-2)。こうした連携を通じて、主体間、参加者間での更なるコミュニティの醸成を図ります。貴重なご意見をありがとうございました。</p>
15	P35	<p>イベントを年に数回増やしたところで市の取り組みの認知が向上することも期待できないのではないかと危惧します。</p>	<p>様々な広報媒体の活用・連携や既存の広報手段の改善・充実により、情報発信を強化し、スポーツ事業の認知度向上と利用・参加方法の周知を図ってまいります。貴重なご意見をありがとうございました。</p>
16	P35	<p>P32の基本理念では、「仕事や子育てに忙しい世代が、運動とスポーツが幅広くあらゆる暮らしに様々な形で取り入れられ、健康作りやコミュニティ醸成が進み・・・」とあり、方向性はすばらしいと思います。ただ実際に施策に落とし込むところで、スポーツを通じた人のつながりづくり、地域でのコミュニティーづくりにつながる生涯学習の観点が抜け落ちた内容になっているように感じられます。 施策で「スポーツ」と謳っているのである程度の縦割りは仕方ないとは思いますが、健全育成やまちづくり・子育て子育てネットワーク協議会などと連携するような発想で、横の連携を教育委員会が主導して組織間のコーディネーションを行う視点が必要だと感じます。そのため生涯学習の基本的な視点としての「スポーツを通じた地域づくり」を、もっと前面に掲げるべきではないかと思えます。</p>	<p>ご意見を踏まえ、必要と感じているものの、なかなか取り組めない方、仕事や子育てで時間の余裕がない方等、様々な方がいらっしゃる、そのような方を含めて誰もが運動・スポーツを通じて健康増進をするとともに、つながりあえるような環境づくりを行うという記述を増やしました(p32基本理念)。また、「地域との連携による運動・スポーツを支える体制の充実」にスポーツ関連団体や地域の仲間など、さまざまなつながりが増えていくようコミュニティの活性化を図るという記述を増やしました(p52基本施策3-2)。あらゆる方の暮らしにさまざまな形で運動・スポーツが取り入れられている環境を目指し、健康福祉や学校教育といった関連部署と連携しながら、よりよいかたちの施策を目指してまいります。貴重なご意見をありがとうございました。</p>

17	P36	<p>「土曜スポーツクラブ」について。「無料・事前予約不要」という特徴は、気軽に参加できそうで、とても良いと思います。子ども本人が小学生でも、弟妹が小さいと、「先々の予定を確認して、予約を取って、当日時間に間に合うように準備して、場合によっては会場まで保護者が送迎」というのは、難しい場合があります。</p> <p>公共スポーツ施設が少ない、市南西部・坂下地域でも、是非なんらかの形で実施していただきたいです。</p>	<p>市南西部では、前原小学校でのスポーツ個人開放校（剣道）がありません。ご利用前に登録が必要ですが登録後は予約不要・無料でご参加いただけます。今後も運動・スポーツに親しむ機会の充実を図ってまいります。貴重なご意見をありがとうございました。</p>
18	P37	<p>「子育て世代の運動・スポーツ活動の推進」について。小学生・幼稚園児・未就学児の子育て中の市民です。家族で同じスポーツを楽しむ機会・親子で運動する機会に着目していただいたのは、ありがたいことと思います。</p> <p>しかし、子どもと一緒に外出することが前提の活動だと、参加の判断や、参加のための一連の行動が、子ども中心になりがちです。「子連れの移動・会場までの往復の道中で、疲れそう」と思ってしまうこともあります。「子育て中の自分の、健康維持・疾病予防のための運動」「妊娠出産前から、本格的に打ち込んでいた競技の再開」等は難しいのでは？と感じます。</p> <p>自分の個人の希望ですが、「子どもとは別プログラム（または、子どもは託児を利用）で、大人の自分が、自分の健康維持や産後の減量等のため、限られた時間でも、効率よく運動できる機会」も欲しいと思います。（一時保育や託児が利用しやすくなると、リフレッシュとしてのスポーツの効果も高まります。）</p> <p>また、市の親子参加事業の多くは、運動分野に限らず、「子どもは一人っ子を想定されているのかな？」という印象があり、異年齢の複数児の育児中だと、どうしても参加の検討が億劫になります。乳幼児～小学校低学年くらいまでの子が対象だと、「保護者と子どもが一对一」でないと、安全確保が難しいプログラムもあるかもしれませんが、3人以上の兄弟姉妹も珍しくない小金井市、きょうだいでも参加しやすい事業の検討をお願いしたいです。</p>	<p>ご意見を踏まえ、小金井市には、仕事や子育てで時間の余裕がない方等、様々な方がいらっしゃる、そのような方を含めて誰もが運動・スポーツを通じて健康増進をするとともに、つながりあえるような環境づくりを行うという記述を増やしました（p32基本理念）。「保護者とお子様は別プログラム」や「保護者とお子様が一対一ではない組み合わせ」等、柔軟な参加方法を検討してまいります。当事者ならではの貴重なご意見をありがとうございました。</p>
19	P37	<p>本年を最後に中学校の陸上部がなくなる。これは教員の過剰勤務への対応のためと思われる。陸上部存続のために外部指導員の参加の強化を行ってほしい。現在の各地域の大会では学校単位での申込が必要な場合があるが、陸上部がないと申請できない場合がある。または小金井市陸上競技協会名で出場できる場合もある。その場合には各学校の許可が必要であり、各中学校への理解・支援のサポートをお願いしたい。</p>	<p>いただいたご意見を関連部署と共有させていただき、併せて運動部活動の地域移行において、こういったご意見を踏まえ、よりよい形を検討してまいります。貴重なご意見をありがとうございました。</p>
20	P42	<p>②指導者の資格取得や適切な指導力の獲得（P42）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得者の把握（すべての競技）</li> <li>・資格取得費用の還元（支援）</li> </ul>	<p>計画案で地域でスポーツを楽しく安全に続けられるよう、指導者の育成を支援すると記載しております（p42基本施策1-5）。資格取得者の情報が必要な際は情報を持っている団体等と適宜連携し、調整します。貴重なご意見をありがとうございました。</p>
21	P43	<p>このページでも黄金井倶楽部の走り方教室、陸上教室のみが掲載されているが、小金井市陸上競技協会でも小金井市民陸上大会のまえに東京都ジュニア育成で陸上教室で走り方を教えている。黄金井倶楽部ばかりが優先記載されている。体育協会所属の加盟団体についても同等に扱ってほしい。</p>	<p>ご意見を踏まえ、小金井市陸上競技協会の著名なイベントとして、p37に小金井元旦ロードレース大会を掲載させていただきました。競技能力向上、また多くの市民が陸上競技を楽しむ貴重な機会として今後も周知に協力してまいりたいと考えます。貴重なご意見をありがとうございました。</p>

22	P47	<p>「スポーツに興味を持つ機会の充実」について。</p> <p>運動やスポーツに積極的でない子どもに、働きかけるのは、家庭内でも、難航する場合があります。</p> <p>登校できている子どもに対しては、「学校の正課の活動・課外活動の中で、プッシュ型（プロの指導者による競技体験事業を学校現場へ直接提供する形等）で、いろいろな体験・経験をさせてあげられるといいと思う」というのが正直な感想です。「家庭の自主性に一任」という自助では、スポーツ体験にも限界があり、格差が広がるばかりなのでは、と思います。昨年12月には「年収300万円未満の家庭の子の、3人に1人は、放課後の習い事や旅行等の機会がない。（年収300～600万円でも5人に1人、年収600万円以上でも10人に1人）」という「体験格差」の調査結果を取り上げた、新聞記事が社会的にも話題になりました。コロナ禍で収入減の世帯、医療従事者など激務が続く保護者がいる世帯など、自助が難しいケースは様々なのは、と思います。一方で、時間をかけての練習や準備が必要な運動会・体育的学習発表会については、何がどのように、教員の方々の負担になっているかの整理と、負担軽減をお願いしたいです。（また、新型コロナウイルス感染症の後遺症や、ワクチン副反応の悪化防止のための、「高負荷の運動を避けるべき時は避ける」等の配慮も、今後ますます重要になることと思います。）</p> <p>もちろん、学校の現場に余裕がないと、何かを変える・何かの機会を増やすにも、教職員の方々の業務・負担が増すばかりかと思えますので、市の判断でできること・都や国に要望していくこと・保護者や地域に理解や協力を求めること等、引き続き周知・実行の上で、「体験格差解消支援」のご検討をお願いしたいです。</p>	<p>いただいたご意見を関連部署と共有させていただきます。子どもたちにプロの指導による競技体験を提供する事業として、FC東京のコーチが市内学校に出向き出前授業を行うといった取組がありますが、学校の授業の一環として行うため体験格差がなるべく生じない方法で、子どもたちにとって貴重な機会であると考えており、今後も実施してまいります。その他、さまざまな運動・スポーツに触れる機会の充実に図ってまいります。貴重なご意見をありがとうございます。</p>
23	P49	<p>運動・スポーツ施設の充実について</p> <p>市のスポーツ施設利用者数の目標値が「維持」とされているところに違和感を感じます。</p> <p>p35にある週に1日以上運動を継続する市民の割合の目標値が上がっているにもかかわらず、受け皿である施設面での目標値が維持されているところに矛盾を感じたと言うのが理由です。</p> <p>また、実際に小金井市にあるシニアサッカーチームが、施設を抑えられないため継続的な練習などが行えていないという声を聞きました。</p>	<p>計画書案の市スポーツ施設の利用者数では53.6万人（平成30年度実績）から令和7年度に60万人まで引き上げるという目標値を経た後、令和12年度まで維持という流れを記載しており、経過地点の目標値60万人が、比較的チャレンジングな目標となっております。また、該当の目標値の対象は市スポーツ施設ですが、週1回以上運動・スポーツを実施している市民の割合については公園や道路、自宅でできる気軽な運動・スポーツ等、より身近に体を動かすことに親しんでもらうことも含めた数値となっており、施設利用者数の目標値との差異が生じています。一方、ご意見にあるように市スポーツ施設は、スポーツ実施の場の一翼を担っており、多くの方にご利用いただきたいことから、ご意見を踏まえ令和12年度の目標を「維持向上」としました。併せて、目標値の下部に記載した市スポーツ施設の説明を、具体的な施設名に修正しました。今後も、市の施設に限らず既存の施設の開放を働きかけることも含め、スポーツ環境の充実に図る必要があると考えております。貴重なご意見をありがとうございます。</p>

24	P49	<p>3-1安全で快適に運動・スポーツができる場の充実  総合体育館に設置されている卓球台（30台）は、体育館が設立されて以来34年が経過しており、卓球台の傷、摩耗が進んでいます。一度に取り換えるのは難しいと思われるので、5年計画等で更改をお願い致します。開放校（緑小）の卓球台及び一小、三小の卓球台は卓球連盟が寄付しました。  検討方、よろしく願い致します。</p>	<p>設備の老朽化によりご不便をおかけしており申し訳ございません。設備については、体育施設全体において計画的な修繕・更新を行ってまいります。貴重なご意見をありがとうございました。</p>
25	P52	<p>・運動設備の公表と充実  例えば、〇〇小学校体育館に卓球台が〇〇台。バドミントン設備が〇〇セット等</p>	<p>体育施設設備の周知や充実を進めてまいります。貴重なご意見をありがとうございました。</p>
26	P53	<p>P53-54 黄金井倶楽部や体育協会の役割で「地域コミュニティ醸成の役割も求められます」とあり、スポーツ推進委員での「企画立案やコーディネーターとしての役割」とあります。確かに役割的な意味でそういった役割は今後。求められて来るとは思いますが、現場の皆さんが、その役割を務められるかどうかは別の問題ではないでしょうか。スポーツ指導員・育成者としての専門性は高いと思いますが、。そもそもコミュニティづくりやコーディネーション等、地域で人と人をつなげる知見や経験はお持ちなのではないでしょうか。イベントを開催するだけでいっぱいになっていないでしょうか。</p> <p>スポーツ団体としては、昭和的な「スポーツ振興」から令和の「スポーツを通じたつながりづくり」に役割が変わっているのに、リスクリング・リカレントの観点が抜け落ちていることはないでしょうか。</p> <p>理想的には、体育協会・黄金倶楽部・推進委員の皆さんが、「スポーツを通じた地域や人をつながりづくり」を行う人財を育成することが良いと思います。そのことで地域で市ががんばらなくても自然発生的にスポーツやイベントの交流が行われ、教育委員会は、人財育成や方向性の策定などディレクションに専念できます。今のようにイベントをいくら開催しても、その時だけのカンフル剤の様な効果しかでないのではないのでしょうか。</p>	<p>ご意見を踏まえ、より健康で自分らしく生きることができるようにするためには、スポーツに親しむことは大切なことであり、誰もが運動・スポーツを通じて健康増進をするとともに、つながりあえるような環境づくりを行うという記述を増やしました(p32基本理念)。いただいたご意見を黄金井倶楽部や体育協会、スポーツ推進委員と共有し、知識や技術の学び直しに努め、地域コミュニティ醸成につながるようスポーツ振興を図ってまいります。貴重なご意見をありがとうございました。</p>
27	P53	<p>中学校の部活の地域移行に関しても、地域に受け皿力がなければ上手くいきませんし、昭和的な感覚で指導が行われても本末転倒になりかねません。地域の指導者に関しても「主体的な学び」や「学びに伴走する」という観点が必要で、その指導は誰が行うのか。その観点も不足していると思います。</p>	<p>中学校運動部活動の地域移行では、子ども達が適切な指導やサポートを受け、安全で快適に運動・スポーツを実施できるよう地域や関連部署と連携して取り組んでまいります。貴重なご意見をありがとうございました。</p>
28	P53	<p>社会教育の原点に習って、「スポーツを通じたひとづくり。地域づくり」を達成するためには、実際の施策をどのように転換するか、外部の知恵や事例なども集めて再検討をお願いしたいと思います(時間が無いと言わずに・・・)</p>	<p>イベント等の開催においては、本市の強みである豊かなコミュニティを活かして、地域の多様な団体・人材と連携して体制の充実を図ってまいります(p52基本施策3-2)。こうした連携を通じて、スポーツを通じた地域づくりの担い手となる人材の発掘、担い手間のネットワーク構築による更なるスポーツを通じた地域づくりを実現してまいります。貴重なご意見をありがとうございました。</p>

29	P53	<p>ちなみに、運動やスポーツのハードルを下げつつ、身近な場所で手軽に運動を行い地域のつながりづくりにもつながる取り組みとして渋谷区の事例があります。こうした施策も「スポーツ施策」として渋谷区は取り組んでいます。</p> <p>このままでは無理かもしれませんが、人財育成や地域での取り組み募集など広げる取り組みや姿勢は参考になると思います。</p> <p>「渋谷どこでも運動場プロジェクト」  <a href="https://project.nikkeibp.co.jp/hitomachi/atcl/study/00119/">https://project.nikkeibp.co.jp/hitomachi/atcl/study/00119/</a></p> <p>こうした事例も参考に是非再検討をお願いします。微力ながらわたしもお手伝いもできると思います。</p>	<p>渋谷区の事例紹介などさまざまなご提案をいただき、ありがとうございました。運動・スポーツの実施が主な目的ではない催事や場所で運動・スポーツに関する働きかけを実施するなどの方法を参考にさせていただきます。</p>
30	P53	<p>「役割分担」について。</p> <p>近年、「街なかに、エクササイズ関連施設が増えたのでは？コロナ禍で、飲食店等のテナントが空いて、その後、フィットネスジムやパーソナルトレーニング施設の店舗が入るパターンが少なくないのかも？」という印象を受けています。</p> <p>あくまで体感なのですが、市民（成人）のスポーツ環境・スポーツ施設へのアクセスという意味では、この数年で、変化している感じがあります。</p> <p>一方で、「猛暑日増加や学校のプール施設の不具合で、学校の水泳の授業が少なかった」「コロナ禍で、マスク無しで密になる習い事を避けたり、収入減で子どもの習い事を減らしたり」等で、水泳については、泳げる子と泳げない子の格差が広がっているのでは？という懸念もあります。今後、水泳授業のカリキュラム見直し（例えば着衣水泳や救命法を重視する等）や民間プール活用等も、検討されることと思います。</p> <p>市のスポーツ推進計画に、民間のスポーツ施設の動向や市内のスポーツ産業のトレンド等をどこまで含めるかは、難しい部分もあるかと思いますが、市のスポーツ環境の一要素として、客観的な数字を元に、何らかの変容の分析結果が含まれると、より実効性の高い計画になるのでは？と感じます。</p>	<p>小中学生については、新型コロナウイルス感染症拡大前後において、東京都統一体力テスト結果の微減傾向や運動時間の減少、小学生における運動部所属割合の減少といった変化が生じており、運動・スポーツに触れる機会の減少が懸念されています（p13）。そのため基本施策「1-1 子どもの運動・スポーツ活動の推進」（p35）を位置づけ、得意・不得意に関わらず誰もが楽しめる運動・スポーツプログラムの実施や中学校運動部活動の地域移行への対応等の推進により、人生100年時代において、生涯にわたって豊かな人生を送るための基盤づくりを図ってまいります。貴重なご意見をありがとうございました。</p>